

保健室便り夏号でも述べましたが、これからの季節、脱水による熱中症など様々な疾患を発症するリスクが考えられます。道端で倒れている傷病者に遭遇する機会もあるかもしれません。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言が解除されて数週間が経ち、人の流れが解除前の水準に戻りつつある中、いつどこで感染者と遭遇するかは分かりません。倒れている傷病者が新型コロナウイルス感染者かもしれません。

今回、厚生労働省、文部科学省より、新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた救急蘇生法の指針が出されましたのでお知らせしたいと思います。

基本となる救急蘇生法については、保健室便り 2019年冬号に載せていますので確認してください。今回は、新たに追加された部分、変更された部分について述べていきます。

感染対策を考慮した基本的な考え方

- すべての心肺停止傷病者に感染の疑いがあるものとして対応する。
- 成人の心肺停止に対しては、人工呼吸を行わずに胸骨圧迫と AED による電気ショックを実施する。
- 子どもの心肺停止に対しては、講習を受けて人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合には、人工呼吸も実施する。
※子どもの心肺停止は、窒息や溺水など呼吸障害を原因とすることが多く、人工呼吸の必要性が高い。



現在示されている救急蘇生法の指針は、新型コロナウイルス感染症に関する新たな知見や感染の広がり状況などによって変更される場合がありますので、その都度お知らせしていきたいと思っております。



感染疑いのある傷病者への救急蘇生法の具体的手順

1. 周囲安全確認

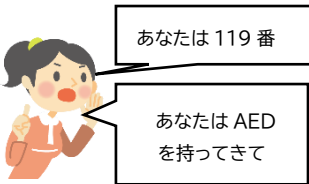


2. 反応の確認



「反応確認」「呼吸確認」
傷病者の顔と救助者の顔が
あまり近づきすぎないように
する。

3. 応援の要請

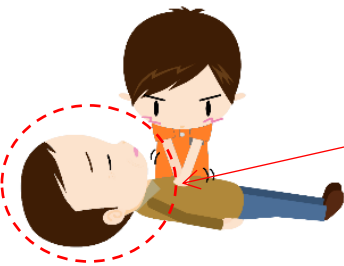


4. 呼吸の確認



エアロゾルとは
飛沫のウイルスを含む微小な粒が
浮遊した空気のこと

5. 胸骨圧迫



エアロゾルの飛散を防ぐために
胸骨圧迫を開始する前に
ハンカチ、タオルやマスクなどを
傷病者の鼻と口にかぶせる。

6. 人工呼吸



成人に対しては、人工呼吸は実施せずに、
胸骨圧迫だけ続ける。

※子どもに対しては、胸骨圧迫に人工呼吸を組み合わせる。
その際には、
手元に人工呼吸用の感染防護具があれば
使用する。
感染の危険などを考えて
人工呼吸を行うことにためらいがある場合には、
胸骨圧迫だけ続ける。



人工呼吸用の
フェイスシールドや
フェイスマスク

7. AED



8. 心肺蘇生の実施の後



救急隊の到着後、傷病者を救急隊員に
引き継いだあとは、速やかに石鹸と流水
で手と顔を十分に洗う。
傷病者の鼻と口にかぶせたハンカチなど
は、直接触れないようにして廃棄するのが
望ましい。